

日本水産株式会社 東京イノベーションセンター

Nippon Suisan Kaisha, Ltd. Tokyo Innovation Center

No. 10-018-2011作成

新築
研究所

発注者	日本水産株式会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO ₂ 技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術/FB			
設計・監理	清水建設株式会社一級建築士事務所 SHIMIZU CORPORATION Design Division	E. リニューアル F. 長寿命化 G. 建物基本性能確保 H. 生産・施工との連携				
施工	清水建設株式会社	I. 周辺・地域への配慮 J. 生物多様性 K. その他				

ひと、社会、未来とつながる自然の中の研究所



南西外観

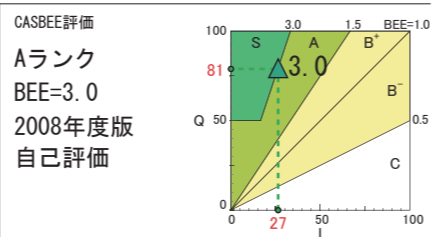
これからの研究開発のシンボルとしてのイノベーションセンター
ニッスイは2011年5月に創業100周年を迎えるにあたり、記念事業のひとつとして新しい研究、開発の拠点として「東京イノベーションセンター」を建設しました。東京イノベーションセンターはニッスイの研究、開発、分析の機能を統合して相剋、創発を促すとともに、日本と世界に点在するグループの中心としての役割を担います。

世界中に拡がっているニッスイグループの事業拠点「Global Links」を敷衍し、「LINKS/人、社会、未来とつながる研究所」を建設のコンセプトとしています。



屋上庭園

所在地	東京都八王子市
竣工年	2010年
敷地面積	24,803㎡
延床面積	13,463㎡
構造	RCSS造(柱:RC造、梁:S造)
階数	地下1階、地上4階、塔屋1階



メカニカルバルコニー

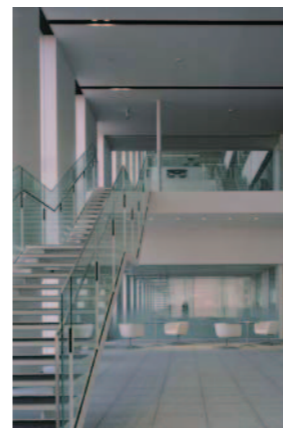


居室

フレキシブルな実験室

研究者の利便性を考慮し、居室と実験室を隣接配置。実験室に面してメカニカルバルコニーを設置し、PMS工法により1スパンごとに外周部の鉄骨を小梁として梁下の有効寸法を確保、将来にわたる設備の更新性を高めている。

居室の空調は、天井吹出しに加え、机の配置に合わせた床下吹出口を併設したデュアルフロー方式を採用し、省エネと快適性の向上を実現している。また、北側から安定した採光を確保し、昼光センサーにより照明電力を削減しています。



エントランスホール



コミュニケーションホール

コミュニケーションの促進

4フロアにまたがる異なった研究部門のコミュニケーションを図るため、居室に2層ごとの吹抜けを設け、階段状に配置した。この吹抜け空間は、打合せを行い、お茶を飲んでリフレッシュし、また他事業所からの出張者はワークスペースとして利用する等多目的に使用され、本研究所の核となるスペースである。

エントランスホールからは一気に4階まで視線が抜け、活気ある研究開発の雰囲気を感じることができる。



敷地内を一周できる「ニッスイふれあいのみち」



武蔵野の面影が残る周辺環境

武蔵野の森の復元

造成地である計画地に対し、「武蔵野の森の復元」をコンセプトに、クヌギ・コナラ等の落葉広葉樹を中心とした植栽を実施しています。北側法面には、社員有志による苗木植栽を実施し、地域とともにその成長を見守っています。

東京イノベーションセンターに隣接する宇津貫緑地は、武蔵野の自然が残る緑地保全エリアであり、そこに生息する生物は、固有の生態系をつくっています。東側緑地側には窓や照明を設けず、そこに生息する虫等なるべく影響が無いよう配慮しています。

設計担当者

統括：山内正美／建築：宮本昌明、大橋一智／構造：小前健太郎、設備／戸田芳信、電気：笹木一宏
写真撮影：松岡 満男

主要な採用技術(CASBEE準拠)

- Q2. 3. 対応性・更新性(メカニカルバルコニー、設備の更新性)
- Q3. 1. 生物環境の保全と創出(周辺の植生に配慮した植栽計画)
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮(周辺住宅地へ配慮した建物配置)
- LR1. 2. 自然エネルギー利用(自然換気、自然採光、太陽光発電)
- LR1. 3. 設備システムの高効率化(タスク&アンビエント空調、ナイトパーズ、外気冷房)
- LR3. 3. 周辺環境への配慮(騒音、振動、光害抑制)